

東京工科大学報 61



学長メッセージ 「大学の自己点検・評価について」



皆様こんにちは、学長の軽部です。今回は大学の自己点検・評価についてお話ししたいと思います。大学がその使命や目的に沿って教育・研究を行っているかどうかを外部の評価機関に評価を受けることが法令で定められています。

本学は平成19年に公益財団法人日本高等教育評価機構によって大学評価基準に適合していると認定されています。それから7年が過ぎ、昨年6月に再び日本高等教育評価機構に自己点検評価書を提出しました。実際に昨年10月には3日間に渡って実地調査が行われ、その後1月上旬に追加資料による説明を行いました。

その結果、日本高等教育評価機構から「東京工科大学は日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する。」でありました。今回の評価は「基準1. 使命・目的等」「基準2. 学修と教授」「基準3. 経営・管理と財務」「基準4. 自己点検・評価」と「基準A. 研究成果の社会還元」について行われました。

18歳人口の減少によって大学を取りまく環境は厳しさを増しており、特に私立大学は生き残りをかけて教育力の強化を図っています。本学も例外ではなく過去7年間に学士の質の保証策、退学者の減少策、入試制度の改革や学部改組など種々の改革を行い、教育力の強化のための方策を次々に実行してきました。それらの改革が今回の評価に繋がったものと考えています。

特に本学の教育の理念「実学主義」を教育に生かすための三つのポリシーすなわちアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定めて全教職員に徹底しています。このためには毎月行われている全学教職員会が重要な役割を果たしていると考えています。他大学で行っていない唯一の教育を心掛ける、学生が入学してから卒業するまで全教職員が一丸となってサポートする、これを「オンリーワン、ベストケア」と呼んで、教職員の行動規範と定めています。今後、日本高等教育評価機構に認定されたからといって満足せず、引き続き教育力の強化を図り、実学主義教育の理念を実践するとともに国際的教養を身につけてグローバル社会に適應できる人材の育成に力を入れていきたいと考えています。

Contents

1	学長メッセージ
2	TUT TOPICS
3-5	学部・学環・研究科便り
5-12	学生・教員の活動と受賞
	応用生物学部
	コンピュータサイエンス学部
	メディア学部
	デザイン学部
	バイオ・情報メディア研究科
12	人事（採用、任命、退職）
13	計報
	動物実験実施状況
	遺伝子組換え実験実施状況
14	受託研究、奨学寄附金等
15	TUT Information
	サークル活動
	学園祭報告
	大学事務局便り
18	2014年度退職教員の最終講義
19	全学教職員会について
	平成27年度入学式
	(学部及び研究科)の日程について
	平成27年度学内行事予定(4月～5月)
20	学位記授与式によせて

大学機関別認証評価結果の報告

東京工科大学は、公益財団法人 日本高等教育評価機構による認証評価で「適合」の認定を受けました。

この外部機関による認証評価は、国公立を問わず、すべての大学が文部科学大臣の指定する認証評価機関による認証評価を7年以内に1回受審することを義務付けている制度で、大学関係者以外の方にはなじみのない制度ですが、第三者により大学全体が評価されることから、各大学にとりましては、非常に重要な評価制度のひとつとなっています。

東京工科大学では、平成19年に第1回目の認証評価を受審し、それから7年目となる平成26年度（本年度）に認証評価機関である公益財団法人 日本高等教育評価機構による第2回目の認証評価を受審し、10月15

日（水）から17日（金）の3日間、蒲田・八王子の両キャンパスで実地調査を受けました。

評価項目・方法としては、冒頭の学長メッセージにもありますが、「基準1：使命と目的等」、「基準2：学修と教授」、「基準3：経営・管理と財務」、「基準4：自己点検・評価」と「基準A. 研究成果の社会還元」の評価項目について、大学としての現状を自ら点検・評価し、その結果をまとめた自己点検評価書をもとに、実地調査として認証評価機関の評価員と本学関係者が面談するという方法で行われました。

その結果、認証評価機関がもつめる4つの基準の内容すべてを満たしており、大学機関別認証評価としては「適合」という結果を受けることができました。なかでも本学の特徴のひとつでもあります教養学環における教養教育の理念

と目標については、高い評価を受けております。

今回の評価結果につきましては、認証評価機関により文部科学大臣に報告され、評価報告書として公表されます。また、本学のホームページでも公開いたします。



東京工科大学の3つのポリシーについて

<p>アドミッションポリシー (入学受入の方針)</p>	<p>本学の基本理念を実現できる志を持った学生を求める。</p> <p>①各専門分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長と自分の夢の実現をめざす人 ②豊かな教養と人間性を育み、高い倫理性と創造性を持ち、持続可能な社会（サステナブル社会）の実現に貢献する人</p>
<p>カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)</p>	<p>本学の基本理念である「生活の質の向上と技術の発展に貢献する人材を育成する」ため、各学部・学科において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献する高度な専門能力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表（カリキュラム）を編成し、実施する。</p> <p>1. 教養教育科目・基礎教育科目 教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報（コンピュータ）・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群（社会人基礎・ウェルネス）の4科目群で構成する。</p> <p>2. 専門科目 (a) 専門基礎、共通科目群 各学部・学科における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。 (b) 専門科目群 各学部・学科における専門分野の知識、先端技術やスキルを学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、問題解決や新しい価値の創造ができる能力を養う。 各学部・学科の特徴ある演習、実験、実習、臨地・臨床実習科目を必修科目や選択必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。 また、卒業研究・課題や病院における臨地・臨床実習の科目を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的には問題解決力等を身につける。</p>
<p>ディプロマポリシー (学位授与の方針)</p>	<p>各学部・学科に所定の期間在学し、各学部・学科の教育理念、教育目標に沿って設定した教養教育科目、基礎教育科目、専門基礎共通科目、専門科目を履修して、基準となる単位数を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、各学部・学科の定める演習、実習、実験、臨地・臨床実習、フィールドワークや卒業研究・課題の作成等が含まれる。 主に全学部共通で行われる教養科目と各学部・学科の特性に応じて編成された専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。</p>

学部・学環・研究科便り

◆ 工学部 『社会が求める「新しいコンセプト」の工学へ』

持続可能な社会（サステナブル社会）の実現に貢献する「サステナブル工学」の体系的な教育・研究や、独自の産学連携「コーオプ教育」などを取り入れた「工学部」を、平成27年4月に新設します。工学部は、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科の3学科から構成され、それぞれの専門分野の教育とともに、①サステナブル工学の知識と技術を応用できる能力の育成、②コーオプ教育による実践力と就業力の育成、③豊かな教養と国際性を身につけたエンジニアの育成、という3つの教育の特徴があります。

サステナブル工学は、地球環境の保全、

生活や社会の質の向上、そして経済的な繁栄を同時に実現し、豊かな社会をつくるための学際的、横断的な学問です。幅広い視点で「ものづくり」全体をとらえ、持続可能な社会づくりに役立つさまざまな技術の実現をめざして、学科共通でサステナブル工学の考え方や実践方法を体系的に修得し、3学科合同のプロジェクト演習を行います。

コーオプ教育は、大学と企業等とであらかじめ作成した就業プログラムにしたがって全学生が約8週間の就業体験を行うものです。事前・事後の学修科目とともに、八王子市あるいは多摩地域のものづくり企業等での就業体験によ

り、大学での学修成果を実践し、また体験したことをその後の大学での学修に反映させ、総合的な社会人基礎力も身につけます。学内のコーオプセンターがコーオプ教育全体を支援します。

さらに、サステナブル工学の知識や技術、コーオプ教育での体験をグローバルな視点で展開できるように、全学的な教養科目とともに、専門科目の一部の講義では英語テキストを用いて専門用語とその使用法を学ぶなど、英語によるテクニカルな記述力やプレゼンテーション力を鍛える独自の教育も行います。

◆ 応用生物学部 『応用生物学部のボランティア実習－宇宙の学校への参加協力－』

現在の高校生のほとんどがボランティア体験をしたことがなく、応用生物学部の新入生を対象としたフレッシューズゼミで、初めてボランティアの体験をします。平成26年度はKUMA（子供、宇宙、未来の会：宇宙開発事業団JAXAの外郭団体）に協力し、7月から全4回の「宇宙の学校」を本学で開催しました。「宇宙の学校」は小学1、2年生を対象とした半日の催し物で、親子で協力

して、ロケットや気球を創作し、これを飛ばして科学の勉強をしながら、楽しむものです。この学校は毎回工作や講義を指導するボランティアのKUMAの先生5～6名と、応用生物学部の学生約70名が協力して、片柳研究所棟1階のホールと講義室とを利用して開催しました。全4回の学校には、近隣の小学生とその保護者約120組が毎回参加しました。学生は会場設営、受付、工作指導などの分担に別れ、「宇宙

の学校」を運営しました。参加者はロケットなどの工作を楽しみ、親子で工作物を飛ばしあったりして、楽しいひと時を過ごすことができました。ボランティアに当たった学生に感謝の言葉が多く寄せられ、学生もボランティアの楽しさと、その意義を理解する経験となりました。

◆ コンピュータサイエンス学部 『新たな学びへの挑戦：JMOOCと反転授業』

コンピュータサイエンスという学問分野は、従来からある多くの伝統的学問分野とは異なりその変化の早さが大きな特徴です。一世を風靡したあの携帯電話は今やスマートフォンへ、数年前までお世話になっていたパーソナルコンピュータは気がつけば小型情報端末へ、さらには腕時計型やメガネ型のものまでも市場に出始めました。このような変化の速さに対応するために、コンピュータサイエンス学部の学生たちには、「日々新たな物事を継続的に学び続ける意欲と揺るぎない基礎学力」が求められます。今年度後期からはこの基礎学力強化のために、最先端の教育方法を導入しました。JMOOC（Japan Massive Open Online Courses）を活用した反転授

業です。まず、自宅でインターネットの世界的権威のWeb動画講義を自分のペースで予習し、大学では学友と予習内容を元に議論を展開する、確かな学力を身につけることができる最新の学修方法です。今年度は初めての試みでしたが、学生の満足度は高く、現在は教育効果の分析結果報告を心待ちにしているところです。新しい学びによる先進的な知識・技術の修得、その積み重ねと繰り返しにより、学生たちはまだ見ぬ新たな自分へと脱皮し、さらなる高みへと上り詰め始めています。頑張れ、コンピュータサイエンス学部の学生たちよ！未来の魔法使いたちよ！

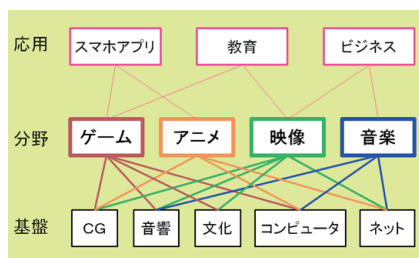
（注）詳しくはWebにて「東京工科大学 JMOOC」で検索。



JMOOCを活用した授業風景

◆ メディア学部 『新しいメディア学部』

メディア学部は日本初のメディアを学問として学ぶ学部として1999年に創設されました。メディア学部では次の三要素が必要であると考えています。



1. メディア情報である映像や音などのコンテンツの制作方法
 2. その情報を人々に幅広く伝える方法
 3. メディアにより豊かな生活をもたらす技術
- 2015年4月、メディア学部は新しいメディア学部生まれ変わります。応用力のある人材を輩出するため、基礎の修得をさらに強化します。左図に示すようなメディアの基盤も、これからのメディアの進展に対応できるよう新しい要素を取り入れます。左図に示すもの以外も含めて基盤がそろっていることがメディア学部の特徴です。例えば、映像制作にはコンピュータグラフィックス、音響、ネットなど各種の知

識と技術が必要になります。別の見方をすると、基盤がそろっているということは、自分が興味ある分野の関連分野も学べることを意味します。例えば、ゲームのキャラクター制作に興味があってメディア学部に入学した後、ゲーム音楽にも興味が出てきたとき、それも学修できるということになります。さらに、応用として教育やビジネスやアプリ制作に学修や研究を発展させることができます。

新たに生まれ変わるメディア学部の教育にどうぞご期待ください。

◆ 教養学環

実習は人生を変える…!?

ウェルネス科目の中で学生にもっとも注目を浴びているのが、集中実技(スキー)です。今年度は2月16日(月)～20日(金)に実施しました。実習地「万座温泉スキー場」は標高が約1,800～2,000mと高所のため、雪質はサラサラ。例年にも増して積雪量は多く、最高のコンディションの中で実習が行われました。参加学生は106名、初日は滑りも生活も改善の余地だけですが、日を送るごとに滑りはみるみる上達します。生活にも張りが出て、すべてに対して行動の先取りができ、初日とは別人と思えるほどの成長ぶりを見せてくれます。他大学では正課のスキー実習を履修する学生が減りつつある中、本学は毎年100名前後を維持している実態に周囲より関心が寄せられています。



ALICE とは・・・

ALICE (Active Learning Center for English) は学内に設けられた英会話ラウンジです。平成26年9月末に図書館棟3階にオープンし、誰でも参加できる英語コミュニケーション活動の場を無料で提供しています。授業期間中の毎週2日間、学年や英語力のレベルを問わず自由に参加できます。授業時間外にネイティブスピーカーと少人数で気軽に話をすることによって英語力に磨きをかけられるだけでなく、イベントを通して異文化に触れたり、他学部、他学年の仲間を増やしたりできる場となっています。



◆ 医療保健学部 『平成26年度最終講義』

平成27年2月18日(水)、定年退職される加藤洋教授および柳澤信夫教授の最終講義が蒲田キャンパス3号館31001教室で行われました。

加藤先生は、昭和41年東京大学医学部をご卒業後、4年間の外科臨床ののち病理学教室に入局。病理学、なかでも消化器癌の病理学を専攻されました。財団法人 癌研究会癌研究所 病理部 部長、癌研究所所長補佐などとして世界的な業績を挙げられました。ご定年後も獨協医科大学の特任教授などとして病理学の診断と研究にご活躍されております。医療保健学部開設時に基礎医学系科目の総責任者として本学教授にご就任、本学部の立ち上げにご尽力されました。学年進行中に発生したさまざまな案件に対しても、常に優しい笑顔で学生、教職員に対応される加藤先生のお姿からも、多くを学ばさせていただきました。

最終講義では、ご専門の消化器病理学、腫瘍病理学、人体病理学分野における国際的な診断基準を策定されたご経験などを交え、これまでのご研究に強い情熱を注がれていたことが感じられる講義となりました。

ご講演の最後に学生や若手研究者に対して、好奇心や探求心を持つ、よく観察して類似性・異質性から法則を発見すること、積極的に議論する重要性をご説明されました。また、卒業後医療現場に就職していく学生に対して、社会人として気配り、思いやり、孤独に耐えながら医療人としてプロ意識を持つようアドバイスをいただきました。

柳澤先生は、昭和35年に東京大学医学部をご卒業。神経学、神経内科学をご専攻されました。大学院修了後、ハーバード大学霊長類研究所生理学部門へのご留学、東京大学神経内科学教室での臨床、教育を経て、信州大学医学部にご赴任。信州大学医学部教授、附属病院院長、医学部長をご歴任。さらに国立中

部病院長として国立長寿医療研究センターの立ち上げに携われたのち、関東労災病院長として、研究・臨床・教育・学会活動など幅広くご活躍された先生です。我が国の内科学、神経学、神経内科学、老年医療の泰斗でいらっしゃいます。医療保健学部開設時に初代学部長としてご推挙され、開設2年前の平成20年に東京工科大学片柳研究所教授(所長)としてご着任いただきました。医療保健学部の設置認可申請から開設後の立ち上げに至るまで、幅広く精力的なご尽力をいただきました。申請から学年進行、さらに臨床検査学科新設と看護学科定員増まで、開設時の様々な難題を泰然自若、沈着冷静にご指導、対応いただきました。つねに優しく理性的に語られる柳澤先生からは、教務・校務のみならず、人間として大事なものも自然にご教示いただいたと思います。

最終講義では、長年にわたる運動神経生理学に関する研究成果をご紹介されました。ご専門の脳研究、神経変性疾患、中枢性運動障害、機能回復神経学に関するこれまでのご研究のみならず、留学時のご経験などもご紹介されました。

ご講演の最後に、研究に大切なこととして、多面的な研究を心がけること、論理の一貫性と目的意識を持つこと、倫理性に配慮しながら上品な研究をすること、相手にとって有用かつ建設的な批判をすべきであり、破壊的であってはならないことなどご指導をいただきました。また、相手を思いやり何事も決めつけないことや、人間関係を大切にしようメッセージをいただきました。

加藤先生、柳澤先生の最終講義は素晴らしいもので、医療保健学部の教員としてはもっと早くにこのような講義を拝聴したかったと思った次第です。両先生のご尽力に深く感謝すると共に、益々のご健康とご活躍をお祈りいたします。



最終講義の様子



加藤洋教授



柳澤信夫教授

◆ デザイン学部 『平成 26 年度 卒業制作展』を開催』

デザイン学部の「平成 26 年度 卒業制作展」が、2月5日(木)から8日(日)の4日間、蒲田キャンパス「ギャラリー鴻」ほかで開催されました。この展覧会は、本年度デザイン学部を卒業する学生たちが、感性教育とデジタルスキルを融合した4年間の学びの成果を作品や研究として発表するものです。会場には、グラフィックやWebなどの「視覚と伝達」、CMやプロモーション映像などの「映像と構成」、インテリアやプロダクト、ランドスケープなどの「空間と演出」の各コースの卒業制作約200点が展示されました。

会期中には、卒業生の保護者の皆さまや在校生、学園の皆さまはもちろん、近隣の皆さま、高校生、他大学や関係企業の皆さまなど、延べ1,000人を超える多くの方々にご来場いただきました。

なお会期初日には、デザイン学部による優秀賞と奨励賞の発表が行われ、漢字の書き順をブロックで遊びながら学ぶことのできる小学生を対象にした知育玩具を提案した作品など、計6点が受賞しました。



優秀賞作品『漢字書き順ブロック』 木戸友貴 その1



優秀賞作品『漢字書き順ブロック』 木戸友貴 その2



卒業制作展 会場の様子



優秀賞作品『四季の言』 小林明日香

◆ バイオ・情報メディア研究科 『研究発表会での修士1年生』

平成 27 年 2 月 13 日(金)にコンピュータサイエンス専攻の修士1年生が、研究の取り組みとこれからの研究計画をまとめ、教員、学生、および企業の皆様と意見交換する研究発表会を開催しました。学生は、研究の進捗状況を A0 版のポスターにまとめ、1 時間にわたり、日頃指導を受けている教員以外の教員、学生、および企業の皆様とのインタラクティブな議論をとおし、研究のすすめ方、方向付け、さらには研究のまとめ方について整理できる有意義な時間を過ごすことができました。また、プレゼンテーションについても丁寧な指導を

受けることができました。学生は、ポスター発表会の質疑応答をまとめ、指導教員と内容を確認し、今後1年間の研究のすすめ方を具体化します。1 時間にわたるポスター発表の質疑応答をとおし、研究テーマの分野の専門家である教員との深い議論から研究に取り組む動機付けが強化されるのみならず、専門外の教員や学生に対して分かりやすく説明することの重要性を認識することができました。



ポスター発表会場の様子

■ 学生・教員の活動と受賞

応用生物学部

柴田雅史教授らの研究グループが、2014 年度色材協会賞を受賞



柴田雅史応用生物学部教授らの研究グループの研究論文が、一般社団法人色材協会より 2014 年度色材協会賞(論文賞)を受賞し、平成 26 年 10 月 23 日～24 日に名古屋市工業研究所にて開催された 2014 年度色材研究発表会にて表彰されました。

受賞論文：

Anthocyanidin dye and Al/Fe-containing mesoporous silica composites and their color properties. Yi-Hung Lin, Aya Saotome, Yoshiumi Kohno, Masashi Shibata J. Jpn. Soc. Color Mat., 86,

397-402 (2013).

論文概要：

研究グループは、多彩な色調をもつ植物色素であるアントシアニンをナノサイズの均一細孔をもつ無機粉体と複合化し、安定化することに成功しました。化粧品やインクジェット印刷用の着色顔料への応用が期待されています。

来須孝光助教が 2014 年度日本バイオイメーキング学会奨励賞を受賞

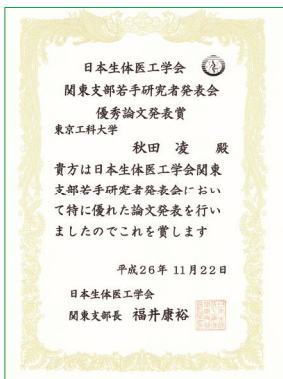


来須孝光応用生物学部助教が、2014 年度日本バイオイメーキング学会奨励賞を受賞しました。授賞式と受賞講演は、第 23 回日本バイオイメーキング学会学術集会(平成 26 年 9 月 5 日：大阪大学)で行われました。

受賞講演タイトル：

『穀物の生理応答における Ca²⁺ シグナルネットワークの重要性とオートファジーの新たな役割』

応用生物学部学生が日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会において優秀論文発表賞を受賞



平成 26 年 11 月 22 日に東京電機大学において開催された日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会において、応用生物学部 4 年の秋田凌くん（指導教員：苗村潔）が優秀論文発表賞を受賞しました。

この発表会は、東京大学、千葉大学、東京農工大学、お茶の水女子大学、早稲田大学、明治大学、中央大学、芝浦工業大学、東京都市大学、杏林大学、東京電機大学から 4 8 件の発表があり、抄録と発表の内容について優秀な 7 件が表彰されました。

発表題目「心臓穿刺支援デバイスの心膜把持力導出に関する研究」

浦瀬太郎教授らの都市の水辺環境に関する研究が新聞などで報道される



浦瀬太郎応用生物学部教授らの研究チームが都市の水辺のかび臭原因物質を調査した話題が、毎日新聞平成 26 年 10 月 16 日夕刊などに掲載されました。存在が明らかになった物質はワインなどのかび臭の原因物質としてはすでに知られていたものですが、都市の水辺環境との関連でこの物質が着目されたことはありませんでした。写真は調査風景です。また、同じ河川にて同チームが調査した抗生物質が効かない薬剤耐性菌の話題が、平成 26 年 7 月 31 日配信の JST サイエンスニュースで動画公開されています。

毎日新聞「ニュースがわかる」に、「アンチエイジング」に関する記事が紹介される

平成 26 年 11 月 15 日（土）発行の毎日新聞の情報誌「ニュースがわかる」12 月号に佐藤拓巳応用生物学部教授のインタビュー記事が掲載されました。

記事では本学応用生物学部で今年度、2 回開催された中学生対象の理科実験教室「ひらめきときめきサイエンス」での取材をもとに作成されたものです。

特集記事「その食べ方でいいの？」

老化のしくみがシンプルな化学反応で説明できそうです。キーワードは「糖化」。甘いドリンクを飲んでファストフードをパクつく生活では、すこやかな心身はつくれないうことです。小中学生のうちから健康を保つ食について考えましょう。



佐藤拓巳教授のインタビュー記事が日経バイオテクオンラインに掲載



佐藤拓巳応用生物学部教授の研究が日経バイオテクオンラインで紹介されました（平成 27 年 2 月 2 日）。この研究は褐藻類シワヤハズ由来の「テルペノイド・ゾナロール」の機能性の研究で、潰瘍性大腸炎を抑制することを発見しました。現在、東京工科大学、

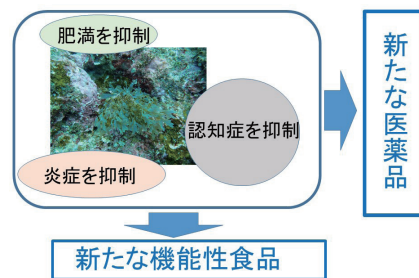
東京海洋大学および鳥羽水産試験場と共同で、褐藻類シワヤハズの養殖システムの確立に着手しました。また同研究チームは、褐藻類シワヤハズ由来の「テルペノイド・ゾナロール」が、大脳皮質の神経細胞を保護することを発見し、1 月 23 日の BBRC に論文が掲載されました。この作用は、潰瘍性大腸炎と同じく、転写因子 Nrf2 を介して起こることを証明しました。

- 日経バイオテクオンライン（平成 27 年 2 月 2 日）
東京工科大と東京海洋大、鹿児島大、種子島の褐藻テルペノイドの機能性発掘、鳥羽で養殖へ

佐藤拓巳教授の「褐藻類シワヤハズ由来のテルペノイド・ゾナロールが潰瘍性大腸炎を抑制」する研究内容が各種メディアで紹介される



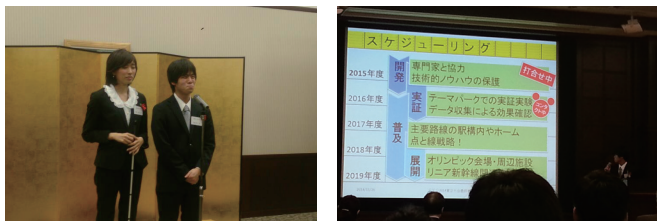
褐藻類由来のゾナロールの機能性を解明



佐藤拓巳応用生物学部教授らの研究チームは、褐藻類シワヤハズ由来の「テルペノイド・ゾナロール」が、潰瘍性大腸炎を抑制することを発見しました。この内容が「日経産業新聞」「健康産業新聞」「JST サイエンスポータル」で紹介された他、以下の掲載 WEB メディアなどでも取り上げられました。

- JSTサイエンスポータル（平成26年11月25日）
藻類の成分が潰瘍性大腸炎を抑制
- 食糧新聞（平成26年11月28日）
褐藻類の成分で潰瘍性大腸炎を抑制 東京工科大が発見
- エキサイトニュース（平成26年11月26日）
昆布やワカメの仲間が潰瘍性大腸炎の予防に有効
- マイナビニュース（平成26年11月26日）
昆布やワカメの仲間が潰瘍性大腸炎の予防に有効
- Yahooニュース（平成26年11月26日）
褐藻類の成分が潰瘍性大腸炎を抑制 - 東京工科大学が発表
- 健康百科（平成26年11月26日）
海藻の力で難病を克服、潰瘍性大腸炎治療に光—東京工科大シワヤハズの成分が潰瘍性大腸炎の症状を抑制

学部学生が第11回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会決勝で優秀賞を受賞



平成26年11月26日に開催された第11回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会においてコンピュータサイエンス学部3年 安藤将大さん(先端技術とマーケティング研究室所属)が、決勝で優秀賞を受賞しました。

自らも視覚障がい者である安藤さんは、大学院アントレプレナー専攻OBが設立したベンチャー企業の支援を受け、先端ICTを活用した事業プランの作成に取り組んで来ました。

本事業プランは、先端ICT技術を活用した歩行誘導システムを提案するもので、250名の応募者の中から優秀賞に選ばれました。

発表テーマ:「視覚障がい者の自由に向けた歩行支援の実現」

～ICTで点字ブロックと白杖に革新を～

インターシティ・ミーティングにおいて学生が佐渡での活動を発表



平成26年11月22日(土)に本学八王子キャンパスにおいて国際ロータリー第2750地区多摩南グループ「インターシティ・ミーティング」が盛大に行われました。このセレモニーでは、本学学長軽部征夫が来賓挨拶を行うとともに、本学と地域社会への貢献活動を、ロータリークラブとより一層協力を進めるという趣旨の「協力宣言」を発表しました。また、地域への貢献に関連した活動に関するシンポジウムセッションでは、本学のサービスラーニング実習の実践報告を招待講演として、学生が発表を

しました。実際に数年にわたり活動を続けた、メディア学部3年生の本田裕也くん、コンピュータサイエンス学部4年生の狩野玲至くんが他の社会人の奉仕活動報告と並んで発表を行いました。発表した学生らは多くの学びを得ました。

発表題目: 佐渡島で共生する ～トキと人と学生と～

国際ロータリー第2750地区多摩南グループ インターシティ・ミーティング

余錦華教授がIJAC Outstanding Associate Editor Awardを受賞



余錦華コンピュータサイエンス学部教授がIJACより2014年度 Outstanding Associate Editor Awardを受賞しました。IJACとは国際誌「International Journal of Automation and Computing」で、今回の賞は Associate Editorとしての貢献を表彰するものです。

芝池成人教授が「平成26年度国際標準化貢献者表彰」を受賞



芝池成人コンピュータサイエンス学部教授が経済産業省より「平成26年度国際標準化貢献者表彰産業技術環境局長賞」を受賞しました。

国際標準化貢献者表彰とは、国際標準化機構(ISO)や国際電気標準会議(IEC)における国際標準策定や、国内規格(JIS)策定といった標準化活動に優れた功績を有する人材を表彰する制度で、功績に応じて、内閣総理大臣表彰、経済産業大臣表彰、産業技術環境局長表彰があり

ます。

■受賞理由

電機電子製品の環境効率改善度指標「ファクターX」の標準化ガイドラインの策定に尽力。また、ISO/TC207(環境マネジメント)/SC3(環境ラベル)やSC5(ライフサイクルアセスメント)においては、国際エキスパートとして日本意見の反映に大きく貢献し、国際規格ISO14045(製品の環境効率評価)の制定に尽力。

さらに、IEC/TC111(電気・電子機器、システムの環境規格)国内委員会委員、IEC62430(環境配慮設計)のJIS原案作成委員会委員を歴任するなど、標準化活動に貢献。

生野壮一郎准教授および伊東拓助教がJSST 2014 Outstanding Presentation Awardを受賞



平成26年10月26-31日の期間に北九州国際会議場で開催されたJSST 2014 International Conference on Simulation Technologyにて本学生野壮一郎コンピュータサイエンス学部准教授と伊東拓コンピュータサイエンス学部助教が、JSST2014 Outstanding Presentation Awardをそれぞれ受賞しました。

■生野壮一郎准教授

受賞発表研究タイトル:

Numerical Investigations for Stable Calculation of Meshless Time Domain Method: Influence of Node Alignment on Numerical Stability
著者: Soichiro Ikuno (Tokyo University of Technology), Yoshiharu Ohi (RIKEN Advanced Institute for Computational Science), Taku Itoh (Tokyo University of Technology)

受賞内容: メッシュレス法の1つである Meshes Time-Domain Method を電磁波伝播解析に適用し、節点配置が数値的安定性や解析結果に及ぼす影響を調べました。

JSST 2014 Outstanding Presentation Award-Soichiro Ikuno (Tokyo University of Technology)

■伊東拓助教

受賞発表研究タイトル: Investigation of Meshless Time-Domain Method with Interpolating Moving Least-Squares Based Shape Functions
著者: Taku Itoh (Tokyo University of Technology), Soichiro Ikuno (Tokyo University of Technology)

受賞内容: Meshless Time-Domain Method では、従来、Radial Point Interpolation Method より生成される形状関数を用いて定式化されていましたが、Interpolating Moving Least-Squares を適用することにより、計算精度と安定性の向上を実現しました。

JSST 2014 Outstanding Presentation Award-Soichiro Ikuno (Tokyo University of Technology)

日経 SYSTEMS12月号で本学の教育システムのフルクラウド化が紹介される



本学は平成 26 年 10 月に教務、就職支援、学籍管理システムをフルクラウド化しました。この内容が、日経 SYSTEMS12月号の特集記事「どうする？塩漬けシステム 鍵はモダナイゼーションにあり」で取り上げられました。記事ではモダナイゼーションの実例として本学のシステムの移行方式が紹介され、統括した田胡和哉コンピュータサイエンス学部教授のコメントが写真付きで掲載されました。

メディア学部

MashUpAwards10 において安本匡佑助教と学生らが受賞



安本匡佑助教



中河原真由子さん

日本最大のアプリサービスコンテストである MashUpAwards10 において、安本 匡佑メディア学部助教とメディア学部 4 年中川原真由子さんがそれぞれ受賞しました。

■ 優秀賞

安本 匡佑 (メディア学部助教) 作品名: VISTouch

■ GeekGirls 賞

中川原真由子さん (メディア学部 4 年 サービスエクスペリエンスデザイン研究室、指導教員: 上林憲行) 作品名: Memorage

菊池司准教授が NICOGRAPH2014 において「ベストプレゼンテーション賞」を受賞



平成 26 年 11 月 3 日 (月)、4 日 (火) に開催された NICOGRAPH 2014 において、菊池 司メディア学部准教授が「ベストプレゼンテーション賞」を受賞しました。

発表内容:

雪崩による雪煙のビジュアルシミュレーション [フルペーパー]
菅野将太さん (拓殖大学)、伊藤弘樹さん (拓殖大学)、
菊池司さん (東京工科大学)

石川知一助教らの研究論文が IEVC2014 ベストペーパー賞を受賞



平成 26 年 10 月 7 日～10 日にタイ・サムイ島で開催された IEVC2014 (The Fourth International Workshop on Image Electronics and Visual Computing) において、石川知一メディア学部助教が筆頭著者として発表した以下の論文が Best Paper Award を受賞しました。これは、

IEVC2014 での 54 件の口頭発表、28 件のポスター発表から選定された 3 件のうちの 1 件です。

発表論文:

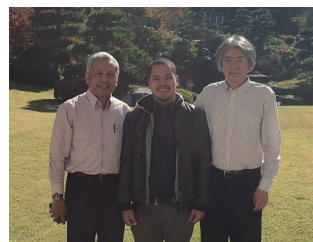
Visual Simulation of Glazed Frost Considering the Supercooled State (過冷却状態を考慮した雨氷のビジュアルシミュレーション)

ライブ・エンタテインメント論 (2014 年度後期) が Musicman-NET で紹介される



メディア学部と一般社団法人コンサートプロモーターズ協会とが産・学提携によって「産業界が求める実践的な教育の実現」を目指し「ライブ・エンタテインメント論」を開講しています。平成 26 年 12 月 2 日に開講した松任谷正隆客員教授の「学生には何にも知らないという強さがある」の講義が Musicman-NET で紹介されました。

マレーシアの研究生 Faiz Bin Abdul Jalil (ファイズ) さんのメディア学部での留学情報が英字新聞「New Straits Times (NST)」で紹介される



近藤邦雄メディア学部教授、三上浩司メディア学部准教授のアニメーション研究のプロジェクトで活動しているマレーシアの研究生 Faiz Bin Abdul Jalil (ファイズ) さんが英字新聞「New Straits Times (NST)」に

「クリエイティブマルチメディアを学ぶための最高の大学の 1 つ

である東京工科大学に留学」という内容で紹介されました。Faiz さんは本学メディア学部と提携しているマレーシアの Management and Science University (MSU) の出身で、CG アニメーションに非常に興味を持っており、「日本の伝統的なお面を用いた 3 次元 CG アニメーションの制作」のために研究生として来日しました。

ウプサラ大学と Game workshop2014 を開催



平成 26 年 9 月 16 日にスウェーデンのウプサラ大学のスタッフと学生、総勢 12 名が来学し、Game Workshop を開催しました。

また、18 日からの東京ゲームショーに出席しました

学がシャドーボックスの研究を先進印刷技術展 2015 に出展



3次元化したキャラクターの元イラスト（左）
シャドーボックスの技術を用いて3次元化したキャラクター（右）

大学の研究では研究成果の実社会への応用が求められています。メディア学部のソーシャルコンテンツデザイン（担当：千代倉弘明、飯沼瑞穂、松橋崇史）に所属する4年生の矢部裕太くんは、自身を取り組むシャドーボックスの制作技術を紹介するCG動画制作を用い、シャドーボックスの振興への効果を評価する研究を行っています。

CG動画の評価を実施する段階で出会った画像処理技術を専門とする株式会社ダックエンジニアリングとの連携で段ボールへの印刷技術を用いたシャドーボックスの作成に挑戦することになり、この度、東京ビッグサイトで行われた先進印刷技術展 2015-Converttech JAPAN 2015（開催期間1月28日～30日）に出展し、協働で作成した制作物を披露することになりました。今後、ビジネスに展開する可能性を秘めています。

先進印刷技術展-Converttech JAPANとは、全国の印刷関連企業が一同に集まり、日常の中にある紙やビニールといった包装資材などへ

の印刷はもちろん、3D印刷や加飾成形など紙以外への印刷技術・表現など、様々な最新かつ高度な印刷技術を発表する場です。

シャドーボックスとは、切り抜いた紙を立体的に重ね合わせることで、二次元のイラストを三次元に見せる立体デコパージュのことです。シャドーボックスは、海外から輸入された技術ですが、国内にも古来から紙立体の技術が存在します。立版古や起こし絵などがそうした伝統技術とされています。

三次元といえば、3Dプリンターの普及によって、3D表現は身近なものとなっていますが、コストや設備の面から、個人で気軽に利用して表現を行うには難しさもあります。

矢部くんは、かねてから独自にシャドーボックスに関心を持ち、多くの作品を制作し、関連イベントに参加していました。一方で、シャドーボックスは個人の趣味の世界で広がっていることから、作成方法をわかりやすく説明した資料が少なく、作成工程をビデオ撮影した解説動画の説明などがあるものの、初心者からすると分かりにくいものでした。そこで矢部くんは、自らの経験と技術、学部で学んだCG技術を用い、初心者にもわかりやすい動画を作成し、高い評価を得ました。

今回の先進印刷技術展への出展のきっかけも、高い印刷検査の技術を持つダックエンジニアリングが、矢部くんのシャドーボックス紹介動画を見ることで、シャドーボックスの魅力に気づくとともに、印刷業界の印刷技術を用いればより魅力的な作品を制作することができると感じ、提案して頂いたところから始まりました。今後の進展にご期待ください。

CEDEC2014に三上浩司准教授と岸本好弘准教授が登壇、 学部生らが出展

平成26年9月2日から4日にかけて、パシフィコ横浜において開催された、日本最大のゲームの技術カンファレンス「CEDEC2014」（主催：CESA）に、三上浩司メディア学部准教授、岸本好弘メディア学部准教授が登壇し、メディア学部生が研究成果を出展しました。

CEDECはゲーム業界最高峰の技術カンファレンスであり、公募講演と招待講演があります。公募講演は、ゲーム業界で活躍する多くのゲーム業界関係者から多数の公募が寄せられ、実行委員会で厳正な審査を行います。セッションの採択率は3倍程度であり、CEDECにおいて講師となることは、業界の発展に寄与する人材として認められた証にもなります。

今年は1日目に公募講演として「ゲームのチカラの社会貢献への展開～日本初の「シリアスゲームジャムによる英語学習ゲームと、世界の子供達に発信する数学学習ゲーム「Global Math」の試み～」というテーマで岸本好弘准教授が講演しました。受講者は80名程度で「学習シリアスゲーム制作にゲーム業界からのご協力を期待しております！」という内容で締めくくりました。複数のゲーム会社様から社

内ジャムでの制作を検討したいとお話を頂きました。

2日目にはウェアラブルコンピューティングの権威で基調講演をされた神戸大学の塚本先生がブースを訪問され、ゲームをプレイされました。

3日目には「PERACON2014結果発表・表彰式」で三上浩司准教授が登壇しました。三上先生はPERACON2014の審査副委員長をおこなっており、今回のテーマである「自己増殖」で投稿されたゲーム企画の授賞作品の各審査委員からのコメントを発表しました。

3日間を通してインタラクティブセッションの公募で「世界中のプレイヤーに遊んでもらえる数学ゲーム「Global Math」制作の試み」を本学メディア学部次世代ゲーミフィケーション研究室の4年生、長沼さん、高橋さん、森さん、穴戸さん、栗原さん、鈴木さん（担当教員：岸本好弘）7名が協力して出展しました。今回のまとめ役である長沼くんからは「「Global Math」というシリアスゲームプロジェクトをより多くの方に知ってもらいたい機会になり、またゲーム業界の方々のつながりを持つ良い機会にもなりました」と感想を述べました。



コメントをする三上浩司准教授



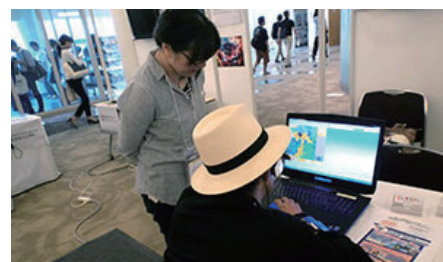
メディア学部出展ブース



結果発表・表彰式の様子



講演後の岸本好弘准教授（写真中央）



ゲームをプレイする塚本先生

メディア学大系 第3巻「コンテンツクリエイション」を出版



メディア学部創立15周年になる今年、メディア学大系シリーズの第3巻「コンテンツクリエイション」が出版されました。長年この分野を研究してきた近藤邦雄メディア学部教授、三上浩司メディア学部准教授の共著です。

私たちは1999年メディア学部設立時から、金子満先生とともに高度なコンテンツ制作技術の教育と研究開発に取り組んできました。そしてコンテンツ制作教育において工学的な知識の再構築を行い体系化することによって、産業界からも注目を集めるコンテンツ

制作教育手法を確立しました。

これらの成果をもとに、本書では、アニメ、3D-CG、ゲーム、映像、ビデオなどのメディアコンテンツの産業構造と、シナリオライティング・キャラクターメイキングなど具体的なコンテンツ制作技術についてわかりやすく解説しました。

この書籍は、2年生の講義「コンテンツ制作工程論」と3年生の講義「コンテンツディベロップング論」で教科書として利用します。3年生の講義「コンテンツディベロップング論」では、教科書の内容を講義するだけでなく、学生自身が課題に取り組んでシナリオ制作を学んだり、シナリオを分析したりすることやキャラクターを制作するさまざまな手法を利用してキャラクターを実際に制作したり、制作支援ツールを制作したりすることを行う予定です。この内容は、数年前から大学院の講義で体系的にまとめており、それらをもとに学部生のために整理しました。

メディア学部で研究制作した福島県白河市の地域活性化アニメーション動画が公開



現在、大学の地域連携や地域活性化が重視されています。メディア学部のソーシャルコンテンツデザイン（担当：千代倉弘明、飯沼瑞穂、松橋崇史）に所属する4年生の秋山裕哉くんは、福島県白河市の観光物産協会と連携して、白河市のイ

メージキャラクターをモチーフにしたアニメーションの作成を行い、地域活性化への効果を測定する研究を行っています。1月9日、完成した動画が公開されました。

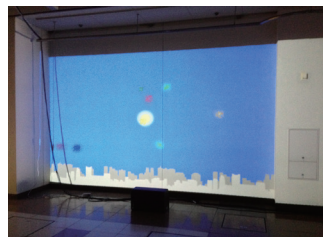
福島県白河市には、「小峰シロ」というイメージキャラクター（白河市観光物産協会公認キャラクター）がいます。この「小峰シロ」は、通常の姿に加え、白河市内の3つの名所にちなんだ姿が存在します。1つ目が小峰城、2つ目が南湖、3つ目が白河の関です。小峰城は、江戸時代の三大改革の1つ、寛政の改革を主導した松平定信が居城としていたお城です。南湖は、その松平定信が整備した、国内初の公園です。白河の関は、江戸時代以前に関東と東北の関所として機能してきた重要な場所です。

白河市を研究フィールドに定めた秋山くんは、イメージキャラクターと貴重な歴史的遺産が存在するものの、それをうまく組み合わせた紹介動画が存在しないことに着目し、既存のイラストや写真を組み合わせ、白河市の魅力を発信する研究に着手します。使用したソフトは、AdobeのAfterEffects。写真や音楽等を組み合わせる紹介動画を作成しました。何度か白河市にも足を運んで、現地調査、協力依頼、信頼関係の構築を行い、最終的には小峰シロの声優にも協力を得て、アニメーションを作成しました。

動画は1月9日に公開され、白河市では、市の情報をコンパクトに集約した動画だとして、早速、学校教育などでの利用も検討されています。

デザイン学部

学部生が「新宿クリエイターズフェスタ2014」で映像作品を出展



平成26年8月22日～9月7日の期間に開催された「新宿クリエイターズフェスタ2014」にてデザイン学部生の動画作品を今年も出展しました。

新宿クリエイターズフェスタは、新宿の色々な場所に展示場を設け、アート作品に触れ合うイベントです。

まち中アートの「Projected Scape -the horizon-」にて4年生の映像作品「Strange Passage, Image」が出展されます。

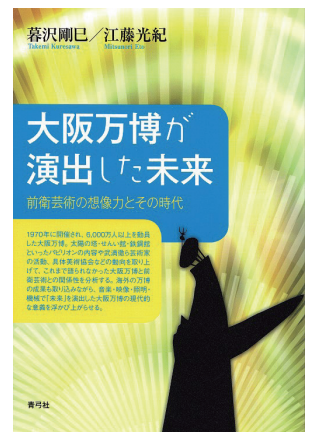
▼学生動画作品「Strange Passage, Image」

- 坂田 慎之介さん（さかたしんのすけ）
- 大河原 裕輔さん（おおかわらゆうすけ）
- 大槻 勇太さん（おおつきゆうた）
- 大場 崇史さん（おおばたかし）
- 遠藤 なつみさん（えんどうなつみ）
- 明石 奈美さん（あかしなみ）
- 石田 香織さん（いしだかおり）

暮 沢剛巳准教授が『大阪万博を演出した未来』を出版

暮沢剛巳デザイン学部准教授が執筆した「大阪万博を演出した未来」が出版されました。

万国博覧会は、多くの国家や企業が参加し、自国の伝統文化や自社の最新技術を発表する大掛かりなイベントです。もちろん、1970年に開催された大阪万博もその例外ではありません。しかし本書では、大阪万博には当時の第一線のクリエイターが多数参加していた事実に着目し、前衛芸術という観点から、誰がどのパヴィリオンを展示にどのような形で関わったのか、また大阪万博以前の万博からどのような影響を受けたのかを詳しく論じられています。大阪万博は東京オリンピックと並ぶ戦後の日本を象徴する大規模な事業で、今までも膨大な研究がなされてきましたが、前衛芸術という観点に着目したものはほとんどありませんでした。本書は、その意味でたいへん意義があるものです。



平成26年度卒業制作展を2月5日(木)～8日(日)まで開催



東京工科大学デザイン学部では、感性教育とデジタルスキルを融合した4年間の学びの集大成である「平成26年度卒業制作展」を、2月5日(木)から8日(日)まで、大田区の蒲田キャンパス「ギャラリー鴻」などで開催しました。

会場には、グラフィックやWebなどの「視覚と伝達」、CMやプロモーション映像などの「映像と構成」、インテリアやプロダクト、ランドスケープなどの「空間と演出」の各コースの卒業制作

約200点を展示。感性を重視した芸術教育と先進的なコンピュータ教育を融合させたデザイン教育の成果を発表しました。

本学デザイン学部は、3つの専攻分野に約800人が在籍しています。平成27年4月からは「工業デザインコース」が新設され、2コース4専攻の体制となります。

酒百宏一准教授が大田区の町工場プロジェクトを展開



酒百宏一デザイン学部准教授が地域連携活動のひとつとして、大田区の廃業した町工場で、職人が残した道具を使って学生や地域住民と一緒に作品づくりと展示を行いました。

バイオ・情報メディア研究科

大学院コンピュータサイエンス専攻博士後期課程石奇く(余研究室)がYoung Researcher's Awardを受賞



平成26年9月16日～21日に中国湖南省にて開催されたThe Joint International Conference of the 10th China-Japan International Workshop on Information Technology and Control Applications and the 6th International Symposium on Computational Intelligence and Industrial Applications (ITCA & ISCIIA 2014)で石奇大学院コンピュータサイエンス専攻博士後期課程1年生(指導教員:余錦華教授)がYoung Researcher's Awardを受

賞しました。

ITCA & ISCIIA 2014は情報、計算知能、制御とその産業応用に關する専門性の高い小規模な国際会議です。

受賞論文:

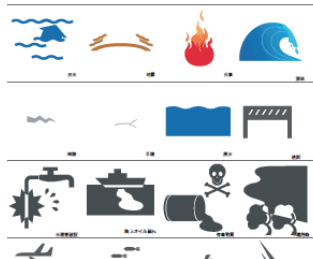
Motion Control of a Mobile Wheeled Inverted Pendulum Using Equivalent Input Disturbance Approach

受賞内容:余研究室で提案した「等価入力外乱手法」という新しい制御手法を車輪型倒立振子の運動制御に応用し、従来の制御手法では得られない高い制御性能を実現した。

これは、職人の道具を「フロッタージュ」という描画技法で紙に写しとる試みで、かつて大田区に8,000もあった町工場のモノづくりの歴史を作品づくりと作品展示を通して参加者や見る人に伝える「オオタノカケラ カケラでつなぐ大田のタカラ」というプロジェクトです。

昨年の9月に作品づくりのワークショップ、10月に展示を行い、学生もスタッフとして参加しました。あまり触れることのできない道具は、見ただけでは何に使うものなのか不思議で魅力的な形をしており、参加者も興味津々。町工場の職人たちとの交流もあり、プロジェクトは今後、酒百宏一准教授の研究活動として継続させていくことになっています。

加藤一葉講師らが認知・知的障害者の為の知識表現支援技術の開発



加藤一葉デザイン学部講師は、産業技術総合研究所の「認知・知的障害者の知識表現支援技術の開発」のチームで共同研究を行っており、認知・知的障害者のために、絵文字をパーツとして使用したコミュニケーションツールを開発しました。

この研究で開発している絵文字のデザインでは、文章のように絵文字を組み合わせて表現できるようにするために、一定の法則や関係性による新しい絵文字の文法を開発しました。

特に防災に特化した約800種類の絵文字のデザインをするにあたり、実際、障害者施設に赴き、障

害者の日常生活における図形等のコンテンツ利用状況を調査し、彼らが“なぜ/どのように行動するのか”を観察から明らかにしています。人がそれを使う場面や状況をわかりやすい形で描き出し、ユーザの体験を組み込みながらデザインすることが、絵文字の視認性、判読性を上げることに必要なプロセスと考えています。



津波



救命胴衣(ライフジャケット)

国際会議ADADA2014でBest Poster賞受賞(韓国の企業、大学院メディアサイエンス専攻卒業生らとの共同研究成果)



平成26年11月15、16日に行われたADADA2014(Asia Digital Art and Design Association)のポスター発表において、大学院メディアサイエンス専攻を卒業したTaegun Kimくん、三上浩司准教授、近藤邦雄教授らがBest Poster賞を受賞しました。Kim君は、韓国に帰

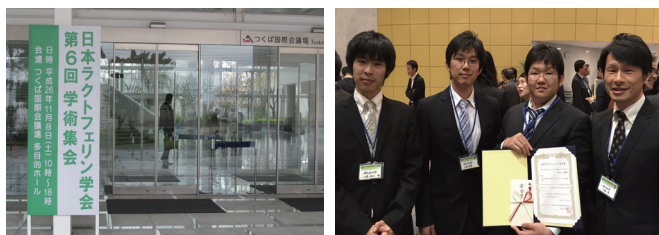
国後、ゲーム会社に勤務する傍ら、現場の課題を解決するために取り組んでいた研究内容を、メディア学部教員と一緒に論文をまとめて投稿しました。

■研究論文

Taegun Kim (Malet Entertainment), Sain Jung (Studio EIM Ltd), Koji Mikami, Kunio Kondo:

Intuitive game character voice recording direction method with character image scale

大学院バイオニクス専攻生らが日本ラクトフェリン学会 第6回学術集会にて学会賞を受賞



平成 26 年 11 月 8 日（土）につくば国際会議場で開催された日本ラクトフェリン学会、第 6 回学術集会 (<http://lactoferrin.jp/2014/gaiyo.html>) において、大学院バイオニクス専攻修士 1 年村田大輔くんらの発表が、学会賞を受賞しました。

タイトル：

IgG Fc 融合技術を用いたヒトラクトフェリンの医薬品展開

発表者：村田大輔さん¹⁾、志賀有貴さん¹⁾、大島裕太さん¹⁾、

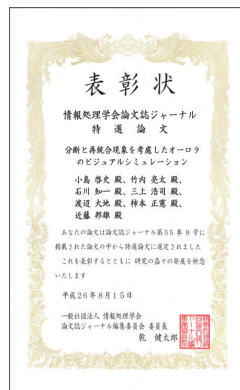
小島由載さん¹⁾、杉本晃規さん¹⁾、多田稔さん²⁾、

石井明子さん²⁾、竹内崇さん³⁾、佐藤淳教授¹⁾

- 1) 東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科
- 2) 国立医薬品食品衛生研究所
- 3) 鳥取大学農学部獣臨床検査学分野

なお、本研究は国立医薬品食品衛生研究所の多田稔先生と石井明子先生、および鳥取大学農学部の竹内崇先生との共同研究による成果です。現在本研究の成果に基づいて、(株)NRL ファーマと共同で、ヒトラクトフェリン Fc 融合タンパク質を医薬品として開発しております。共同開発に参加いただける製薬企業を探しています。

大学院メディアサイエンス専攻博士後期課程小島啓史く んらの研究論文が情報処理学会から特選論文として選 定される



情報処理学会から大学院メディアサイエンス専攻博士後期課程小島啓史くんを筆頭著者とする研究論文「分断と再統合現象を考慮したオーロラのビジュアルシミュレーション」が、特選論文として選定されました。

「特選論文」とは情報処理学会が発刊する論文誌ジャーナル/JIP の論文のうち、きわめて優れた研究成果があって、多くの人に読んでもらうことが推奨される論文に対して、「特選論文」の名前が付与されます。

今回の「特選論文」は論文誌ジャーナル第 55 巻 8 号に掲載の 26 件の論文から選定された 2 件のうちの 1 件です。

題目：

「分断と再統合現象を考慮したオーロラのビジュアルシミュレーション」

著者名：小島啓史、竹内亮太、石川知一、三上浩司、渡辺大地、
柿本正憲、近藤邦雄

掲載：情報処理学会論文誌ジャーナル、Vol. 55、No. 8、
pp. 1886-1898、

研究概要：

CG 動画生成を目的とした簡便な方法でオーロラの動きをシミュレートしました。従来の技術では、オーロラの単純な形や動きしかシミュレートできませんでした。今回の研究は、カーテン状に波打つオーロラが分断して 2 つに分かれたり、逆に再び結合したりする現象を模擬することにより、これまでになくリアルなオーロラ表現を可能にしました。

人事（採用、任命、退職）

1. 採用

（平成 26 年 8 月 1 日付）

教授 医療保健学部臨床工学科 田仲浩平

メディアサイエンス専攻博士後期課程担当
准教授（メディア学部） 進藤美希

（平成 26 年 9 月 1 日付）

教授 応用生物学部 今井伸二郎

教授 教養学環 阿部達彦

講師 医療保健学部看護学科 大木正隆

講師 医療保健学部理学療法学科 地神裕史

助教 医療保健学部看護学科 欠ノ下郁子

助教 医療保健学部理学療法学科 日下さと美

バイオニクス専攻博士後期課程担当

助教（応用生物学部） 吉田亘

バイオニクス専攻修士課程担当

助教（応用生物学部） 阿部周司

助教（応用生物学部） 中川香奈子

メディアサイエンス専攻修士課程担当

助教（メディア学部） 寺岡文博

（平成 26 年 10 月 1 日付）

教授 メディア学部 福島 E. 文彦

教授 医療保健学部臨床工学科 伊東雅之

准教授 応用生物学部 村上勝彦

准教授 コンピュータサイエンス学部 前田就彦

助教 医療保健学部理学療法学科 河方けい

助手 医療保健学部臨床工学科 楠元直樹

（平成 26 年 10 月 1 日付）

事務局八王子キャンパス業務課勤務 坂本さおり

事務局蒲田キャンパス学務課勤務 佐野知宏

事務局情報サービス課勤務 久保康生

2. 任命

（平成 26 年 9 月 1 日付）

バイオニクス専攻博士後期課程及び修士課程担当

教授（応用生物学部） 今村亨

教授（応用生物学部） 岩淵徳郎

教授（応用生物学部） 松井徹

メディアサイエンス専攻博士後期課程及び修士課程担当

准教授（メディア学部） 菊池司

3. 退職

（平成 26 年 9 月 30 日付）

講師 教養学環 安部久貴

（平成 26 年 11 月 23 日付）

教授 デザイン学部 横川昇二

訃報



◆横川昇ニデザイン学部教授

平成 26 年 11 月 23 日、デザイン学部の横川昇二教授が逝去されました。
横川教授は、1973 年東京芸術大学美術学部工芸科デザイン専攻をご卒業後、東京芸術大学大学院美術研究科 ID 専攻を修了、(株)横川環境デザイン事務所代表取締役を経て、平成 23 年に本学デザイン学部に着任され、デザイン学部の立ち上げに多大な貢献をしていただきました。
学生にも穏やかに、時に厳しく接し、職員にも親しく接して下さる素晴らしい先生でした。

ここに安らかなお眠りをお祈り申し上げます。

動物実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的	実験動物種
第 A10-001	応用生物学部	細胞ネットワークの作動ルールの理解および医工学への応用	神経組織の再構成技術と神経伝達物質 Real-time 計測技術を開発する	ラット (20 匹)
第 A10HS-001	医療保健学部	マウスの解剖 (学生実験)	小動物の構造および基本的な解剖手技を学ぶ	マウス (82 匹)
第 A12BS-001	応用生物学部	ラットまたはマウスにおける酸化ストレス解析	摘出した臓器と血液を用いて脂質とその結合蛋白質の解析をおこなう	ラット (7 匹) マウス (0 匹)

注) 実験動物種の数は、平成 25 年度実施分となります。

遺伝子組換え実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的
第 10BS-001 号	応用生物学部	大腸菌へのルシフェラーゼ 遺伝子導入実験	大腸菌にルシフェラーゼ遺伝子を導入し、ルシフェラーゼを作らせること。
第 06-001 号	応用生物学部	ランダムペプチドライブラリーを用いたペプチドリガンドの創製	サイトカイン受容体などに結合する新規ペプチド配列を、ファージディスプレイランダムペプチドライブラリーから単離する。
第 12BS-001 号	応用生物学部	コエンザイム Q 関連蛋白質高発現株の作成と解析	動物細胞におけるコエンザイム Q 関連蛋白質の役割を解明する。
第 13BS-001 号	応用生物学部	環境浄化植物の作出と解析	塩生植物や耐乾性植物のストレス耐性機構を分子レベルで明らかにし、砂漠などの不良環境を改善する植物を開発し、性能評価を行う。また、ポトスをはじめとした植物のもつホルムアルデヒド浄化能力を増強して効果を評価する。
第 14BS-001 号	応用生物学部	siRNA 発現ライブラリーによる遺伝子の解析	RNAi 効果による遺伝子発現破壊とその表現型の解析手法、および siRNA ライブラリー作製法を組み合わせた新規 siRNA 発現クローニング法の有効性を実証する。さらにその siRNA を同定して新規作用による医薬品、化粧品、食品等の開発に役立てる。
第 14BS-002 号	応用生物学部	サイトカイン関連遺伝子の発現	サイトカイン関連遺伝子の遺伝子組換え型タンパク質を調製して、その機能解析を行う。
第 14BS-003 号	応用生物学部	メチル化 DNA の機能解析及び迅速・簡便なメチル化 DNA 検出方法の開発	ヒトゲノム中において DNA のメチル化の遺伝子発現制御機構について解析し、疾病マーカーとなる遺伝子の DNA メチル化を迅速に検出する方法を開発する。
第 14BS-004 号	応用生物学部	機能性ポリペプチドの発現	ヒト体内でホルモンとして機能するペプチドを大腸菌に発現させ、精製後にそれと結合するリガンドを探索する。

受託研究、奨学寄附金等

1. 受託研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
浦瀬 太郎 (応用生物学部教授)	船舶用生活排水処理の効率に関する研究	H26.6.9～H26.12.31	株式会社五光製作所
亀田 弘之 (コンピュータサイエンス学部教授)	鉄道車両との相互作用を考慮した軌道動的応答解析に関する研究	H26.4.1～H27.3.11	東海旅客鉄道株式会社
三田地 成幸 (コンピュータサイエンス学部教授)	光通信関連の新規接着剤に関する研究－透過率、屈折率調整及びSiデバイスへの適用－	H26.4.1～H27.3.31	横浜ゴム株式会社
	ふくしま医療福祉機器開発事業におけるF-SASシステムの無線LAN型小型F-SASセンサの試作技術指導、機能評価、現場試験及び解析・評価	H26.6.25～H27.3.31	株式会社アリーナ
後藤 正男 (医療保健学部 臨床検査学科教授)	ホウ素処理カーボンのバイオセンサ電極特性の研究	H26.4.1～H27.3.31	アルプス電気株式会社
正木 仁 (応用生物学部教授)	ポリフェノールの抗酸化作用による肌の光老化抑制メカニズムの解析に関する研究	H26.7.1～H27.3.31	株式会社ちふれ化粧品
前田 憲寿 (応用生物学部教授)	味噌・糀における美肌効果成分の探査	H26.8.1～H27.3.31	マルコム株式会社
石畑 宏明 (コンピュータサイエンス学部教授)	ポスト「京」実現に向けた超並列計算機アーキテクチャの研究	H26.9.9～H27.3.29	富士通株式会社
佐藤 淳 (応用生物学部教授)	ラクトフェリンに関する研究	H26.4.1～H27.3.31	株式会社NRLファーマ
杉山 友康 (応用生物学部教授)	6価クロム浄化剤開発事業	H26.11.1～H27.2.28	初野建材工業株式会社
井上 亮文 (コンピュータサイエンス学部講師)	センサーネットワークに関する調査研究	H26.12.1～H27.5.31	日本プロセス株式会社
福島 E. 文彦 (メディア学部教授)	複合センサ搭載フォーム型多関節ロボットの研究開発（NEDO「インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム開発プロジェクト」「インフラ維持管理用ロボット技術・非破壊検査装置開発」再委託）	H26.10.1～H27.3.10	株式会社タウ技研

その他 8 件

2. 共同研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
村松 宏 (応用生物学部教授)	クォーツ・クリスタル・マイクロバランス（QCM）の食品の粘度計測への応用に関する研究	H26.4.1～H27.3.31	セイコーインスツル株式会社
石橋 仁美 (医療保健学部 作業療法学科助教)	メイクアップによる障害者支援方法の確立	H26.7.1～H27.9.30	花王株式会社
前田 憲寿 (応用生物学部教授)	フラレーンの美容効果に関する評価	H27.1.1～H27.8.31	ビタミン C60 バイオリサーチ株式会社
廣田 雅子 (医療保健学部 臨床検査学科講師)	eラーニング細胞鑑別ソフトウェア用の細胞画像の構築	H27.1.15～H27.7.14	セラピジョン・ジャパン株式会社

その他 3 件

3. 奨学寄附金

研究者名	企業（団体）名
正木 仁 (応用生物学部教授)	株式会社アイビー化粧品
山本 順寛 (応用生物学部教授)	協和発酵バイオ株式会社
山下 俊 (コンピュータサイエンス学部教授)	サンアプロ株式会社
遠藤 泰志 (応用生物学部教授)	築野食品工業株式会社
後藤 正男 (医療保健学部 臨床検査学科教授)	恵比須化学工業株式会社、キュービー株式会社

その他 5 件

4. その他

研究者名	研究テーマ	期間	企業（団体）名
山元 進 (コンピュータサイエンス学部准教授)	研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）本格研究開発ステージ シーズ育成タイプ 「ナノスケール材料向け超大規模電子構造計算プログラムの実用化研究開発」	H26.4.1～H27.3.31	独立行政法人 科学技術振興機構
森本 樹 (コンピュータサイエンス学部講師)	戦略的想像研究推進事業（個人型研究くさきがけ） 「高効率な二酸化炭素還元を目指した新規光触媒の創製」	H26.4.1～H27.3.31	独立行政法人 科学技術振興機構
山下 俊 (コンピュータサイエンス学部教授)	戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）次世代農林水産業創造技術「地域のリグニン資源が先導するバイオマス利用システムの技術革新；リグニン-粘土ハイブリッドマテリアルの開発」	H26.10.6～H31.3.31	独立行政法人 森林総合研究所
木村 康男 (コンピュータサイエンス学部教授)	戦略的創造研究推進事業（チーム型研究＜CREST＞） 「超絶縁性脂質二分子膜に基づくイオン・電子ナノチャネルの創成；脂質二分子膜単電子デバイスの構築」	H26.10.1～H28.3.31	独立行政法人 科学技術振興機構

サークル活動

東京工科大学クロイツェル室内管弦楽団第15回記念定期演奏会が開催されました

平成27年2月28日(土)に、東京工科大学クロイツェル室内管弦楽団は、オリンパスホール八王子にて、楽団創立15周年記念定期演奏会を開催しました。クロイツェル室内管弦楽団は、2000年2月14日に発足し、今年で15年目を迎え、当初は3人だった部員も現在では30人程になりました。年に1度の定期演奏会のほか、学校の年間行事である入学式、学位記授与式、紅華祭でも演奏をしています。

また、老人ホームや学園都市センターなどの学外での活動や、学会での依頼演奏、オーケストラだけでなく少人数のアンサンブルにも取り組むなど幅広く活動しています。

今回は、楽団創立15周年という記念の回ということもあり、ぜひオリンパスホール八王子で演奏会を開催したいと、団長の村松さんを始め学生らがOB・OGの先輩方に声をかけをし、開催に至りました。一般の多くのお客様で開場前にはホール入口に列がで、楽団

の演奏会を心待ちにしていた様子がみてとれました。開演間際、ホールは多くの来場者であふれ、本学学生約30名の他、OB・OG・賛助出演者の方々30名以上、見えないところで演奏者を支える裏方の学生スタッフと協力して、大勢のメンバーによって壮大な演奏を観客に届けることができました。

今後も定期的に演奏会を実施する予定です。楽団ホームページ、もしくは大学ホームページに情報が掲載されますので、ぜひ学生たちの若さあふれる演奏会に足をお運び下さい。



リハーサルの様子



団長：村松竜乃介さん(3年生)

色々なことがあった1年でしたが、この日を迎えることができ、また先輩達や賛助出演者の方々と一緒に演奏することができて非常に嬉しく思います。

自分が団長の年に15周年を迎えることができたこと、こういった記念演奏会を開催できたことを誇りに思っています。



OP(卒業生)事務局代表：石坂恭成さん

本来、室内管弦楽団は15～20名程度の編成ですが、現在の部員数になっても初心を忘れないため名前を変えずに、八王子の地域のために何か貢献がしたいとの思いから、主に八王子で演奏活動をしています。

オリンパスホール八王子は、東京工科大学のホームグラウンド八王子市を代表とする素晴らしいホールです。この場所を記念演奏会の舞台として演奏することができて大変嬉しく思います。



学生、OB・OG、賛助出演者、トレーナー、指揮者 全員の集合写真

八王子市式分方小学童保育クリスマス会にて演奏

平成 26 年 12 月 25 日(木)に東京工科大学吹奏楽団 TUT-Winds は、八王子市式分方小学校学童保育で開催されたクリスマス会に参加し、式分方小学童保育の児童と、元八王子小学童保育の児童、計 200 名の前で演奏をしております。当日は、ディズニーのリトル・マーメイド・メドレーの他、英雄の証、モンスターハンターや、妖怪ウォッチメドレーなど、小学生でも耳にしたことがある曲を中心として 7 曲演奏し、楽しいひと時を過ごしていただく事ができました。

東京工科大学吹奏楽団は、年 2 回の演奏会だけではなく、このような小学校からの演奏依頼や、学位記授与式や入学式などの式典、学園祭など、様々な場面で幅広く活動しています。



東京工科大学吹奏楽団 TUT-Winds

東京工科大学合同展示会が開催されました

平成 27 年 2 月 13 日～ 15 日の 3 日間、原宿のデザインフェスタギャラリーにおいて、東京工科大学合同展示会が実施されました。このイベントは東京工科大学文化系公認サークル(部・同好会)の活動発表の場として毎年実施しており、今年は八王子・蒲田あわせて 10 団体が参加しました。

原宿のギャラリーということもあり、多くの一般客が来場されるなか、写真や作品の展示、自主制作 CD の配布、自作アニメの上映、インターネットラジオの生収録など、各サークルの特色を生かして堂々と発表しました。

また、当日は同じ会場で他大学の作品展示も開催されており、サークルの八王子・蒲田間交流とあわせて大学間での交流もあり、参加した学生にとってはとても刺激のある 3 日間になりました。



学園祭報告

八王子キャンパスにて「紅華祭」を開催しました

本学と姉妹校である日本工学院八王子専門学校合同による、第 10 回紅華祭(学園祭)が、平成 26 年 10 月 12 日(日)、13 日(月祝)の 2 日間、台風接近の中、開催されました。

開催初日は、なんとか天候に恵まれたものの、台風接近の予報もあり、メインステージは縮小。それでも、記念ホールで開催されたオープニングイベントを皮切りに、各学部の研究室発表、サークル発表、模擬店、紅華祭ライブ、同窓会主催のホームカミングデーなど、来場者は 11,407 人(ホームカミングデー来場者は約 450 人)と、多くのお客様に楽しんでいただくことができました。

そして 2 日目には台風が接近。目玉イベントである、お笑いライブが終了したところで、紅華祭も終了。それでも来場者は 5,837 人と、悪天候の中、多くのお客様にお越しいただくことができました。

そして、風雨が強まる中、台風の直撃に備え、紅華祭実行委員会スタッフ総力挙げての撤収作業。毎年最終日に開催されていたエンディングもなく、紅華祭実行委員会にとって、不完全燃焼な紅華祭であったかもしれませんが、学生には良い経験になりました。



蒲田キャンパスにて「かまた祭」を開催しました

平成 26 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、蒲田キャンパスにおいて、本学と姉妹校である日本工学院専門学校との合同学園祭「第 49 回かまた祭」が開催されました。今年は、蒲田キャンパス新施設建設工事のため屋外イベントが制限されるというハンデがありましたが、学生達の豊富なアイデアで昨年以上のイベントを用意し、ご来場の皆様をお迎えしました。

医療保健学部では、医療機器展示や健康状態をチェックできる「健康応援フェスティバル」、デザイン学部では、毎年恒例となりま

した 1 年生が自画像を描く「デザインフラッグフェスティバル」、工事用フェンスを活用した有志団体による「ウォールアート」、実行委員会が企画したお出かけ屋敷、文化系サークルについては、ほぼすべての団体が参加して様々な展示や演奏会などを披露しました。

蒲田キャンパスに大学が設置されて間もないということもあり、学園祭もまだまだ手探りですが、ご来場の皆様の期待に応えるよう年々充実させていきますので、次年度以降も是非ご期待ください。



デザインフラッグフェスティバル



健康応援フェスティバルの様子



メインステージの様子



ウォールアート 2014
美術同好会 「Share and Change」



ウォールアート 2014
インターネットラジオ放送同好会 「台本のないラジオサークル」

同窓会ホームカミングデーを八王子と蒲田で開催

平成 26 年 10 月 12 日（日）、13 日（月・祝）に開催された八王子キャンパス学園祭「紅華祭」初日に、東京工科大学同窓会が第 7 回ホームカミングデーを開催しました。同窓会ホームカミングデーは、卒業・修了生と教職員が参加する毎年恒例の懇親会です。参加者は年々増え、今回は最多となる 450 名を超える来場がありました。

また、平成 26 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の両日、蒲田キャンパス学園祭「かまた祭」にて、蒲田卒業生対象の第 1 回ホームカミングデーを開催しました。会場となる教室をデザイン学部の卒業生が装飾し、アットホームな雰囲気懇親が行われました。医療保健学部の卒業生は勤務と重なる方も多かったようで、開催日程の工夫が今後の課題です。

ホームカミングデーを運営する同窓会役員会には、蒲田キャンパスの卒業生も参加しています。両キャンパスでのホームカミングデー開催は、同窓会をさらに成長させる貴重な機会となりました。



第 7 回ホームカミングデーの様子（八王子キャンパス）

大学事務局便り

就職活動スケジュールはこう変わります！

平成28年3月卒業予定の学生より就職活動開始時期が後ろ倒しになります。しかし、企業によってはこのスケジュールに捉われないことなく採用活動を行うケースも多く見受けられます。

この状況を鑑み、八王子キャンパスの3学部におきましては、就職ガイダンス時にその実情を説明し、学内合同企業セミナー、模擬面接会、エントリーシート作成・添削、業界研究セミナー、企業見学訪問、就活身だしなみ講座等を実施致しました。

蒲田キャンパスにおきましては、デザイン学部で3年次前期より履歴書対策・自己分析等を実施し、後期からは業界セミナー・SPI対策を実施して参りました。医療保健学部につきましては履歴書対策、論作文対策を実施するとともに医療機関採用担当者による模擬面接会を実施致しました。両キャンパス共にキャリアサポートプログラムを実施し学生指導を進めております。

就職活動スケジュールはこう変わります

	3年生					4年生						
	4月～11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2015年3月卒業までのスケジュール	就活準備	企業へのエントリー開始	説明会・セミナー			選考開始	内々定	夏採用			内々定	内定式
2016年3月卒業からのスケジュール	就活準備		企業へのエントリー開始	説明会・セミナー			選考開始	内々定			内定式	

卒業生による「いろは相談会」が開催されました

本学同窓会の協力のもと、平成26年11月22日(土)に本学卒業生26名にお越しいただき、片柳研究所棟10階アクティブラーニングセンターにおいて『いろは相談会』を実施しました。

卒業生を現在従事している仕事の職種別にブースに配し、これから就職活動をスタートさせる学部3年生および大学院修士1年生が、自分の希望するブースを順次訪問し、仕事の内容や社会人としての心得、大学時代の学修や打ち込んだことが今どのように役立っているか、就職活動の進め方などを先輩から直接聴くことによって、今後の自分のキャリア形

成に役立たせる企画として非常に有益なものとなりました。

また、別室では女性の卒業生のみをブースに配し、女性としての働く意義や結婚、出産など女性に特化したコーナーも設置しました。

参加した64名の在学生からは、本相談会が非常に有益であったとの意見が大半で、後輩に対しても本相談会を是非開催して欲しいとの要望が多数寄せられました。

次年度以降も改善を図りながら、在学生が悩みや不安を少しでも払拭したうえで就職活動のスタートが切れるよう継続的に開催していく予定です。



2014年度退職教員の最終講義

2014年度をもって退職される教員の最終講義が、下記のとおり開催されました。

日時	教員名・所属	題目・教室
2月18日(水) 17時30分～18時30分	医療保健学部 学部長 柳澤 信夫 教授	50年を振り返って —運動神経生理学を中心に— 蒲田キャンパス 3号館10階31001教室
		楽しみいっぱい病理学 蒲田キャンパス 3号館10階31001教室
2月23日(月) 13時00分～14時10分	コンピュータサイエンス学部 中村 太一 教授	和を以てなす 八王子キャンパス 片柳研究所棟2階KE202教室
		ネットワークに魅せられて 八王子キャンパス 片柳研究所棟2階KE202教室
2月27日(金) 15時00分～16時20分	応用生物学部 学部長 斎木 博 教授	研究所から大学へ —組織の立ち上げと研究— 八王子キャンパス 片柳研究所棟2階KE202教室



全学教職員会について

本学教職員のファカルティ・ディベロプメント (Faculty Development) ・スタッフ・ディベロプメント (Staff Development) 活動の一環として、月に1回全学教職員会を開催し、教育方法や質の向上を目指す取り組みを行っています。平成26年度は次のようなテーマで開催しました。

- 第1回 (4月) 平成26年度の基本方針 学長、教務部長、学生部長、就職部長
- 第2回 (5月) 平成26年度の基本方針 各学部長・学環長、各学科長
- 第3回 (6月) 世界のFDの課題 欧米と日本 東北大学高度教養教育・学生支援機構 副機構長 羽田貴史教授
- 第4回 (7月) 大学新ITシステムの教育利用について メディアセンター長
- 第5回 (9月) 本学の国際教養スタンダードについて 教養学環長
- 第6回 (10月) オープンエデュケーションの現状と展望 一般社団法人 日本オープンオンライン 教育推進協議会
JMOC 事務局 事務局長 福原美三氏
- 第7回 (11月) アクティブラーニングを利用した学長賞について 各学部
- 第8回 (12月) 創価大学におけるピアサポートの取り組みと事例 創価大学 教育・学習支援センター長 関田一彦教授
- 第9回 (1月) 卒業研究への取り組み方について 各学部
- 第10回 (3月) 学生のメンタルヘルスケアについて 医療保健学部 作業療法学科 中川和美教授

平成27年度入学式 (学部及び研究科) の日程

開催日	平成27年4月3日 (金)
式場	八王子キャンパス 体育館
学生入場開始	9時30分
開式	10時30分
式典終了予定	12時00分

平成27年度学内行事予定 (4月～5月)

★要注意 (土曜日・祝日開講または振替授業実施日)

八王子キャンパス

行事予定	日付
学位記授与式	3月20日 (金)
編入生 (新入生) ガイダンス	3月24日 (火)
応用生物学部 在学生ガイダンス、健康診断	3月25日 (水)
コンピュータサイエンス学部 在学生ガイダンス、健康診断	3月26日 (木)
メディア学部 在学生ガイダンス、健康診断	3月27日 (金)
就職関連行事 (新3年生) アドバイザー面談 (新2、3年生)	3月30日 (月)
春期休業	4月1日 (水)
ノートパソコン受け渡し、 セットアップガイダンス	4月2日 (木)
入学式、新入生ガイダンス	4月3日 (金)
新入生・編入生ガイダンス、 プレースメントテスト、 避難訓練	4月4日 (土)
新入生・編入生ガイダンス、 健康診断	4月6日 (月)
健康診断・留学生ガイダンス	4月7日 (火)
授業開始	4月8日 (水)
履修登録	4月15日 (水) ～4月21日 (火)
履修登録確認・修正	4月22日 (水)
★新入生学部交流会	4月25日 (土) ※実施日は変更になる場合あり
★祝日授業開講	4月29日 (水)
春期保護者懇談会	5月16日 (土)、17日 (日)
スポーツ大会	5月23日 (土)
★補講	5月30日 (土)

蒲田キャンパス

行事予定	日付
学位記授与式	3月20日 (金)
2年生ガイダンス (医療保健学部)	3月26日 (木)
2年生ガイダンス (デザイン学部) 3年生ガイダンス (デザイン学部・医療保健学部)	3月27日 (金)
春期休業	3月28日 (土)・29日 (日)
4年生ガイダンス (医療保健学部)	3月30日 (月)
4年生ガイダンス (デザイン学部) 4年生健康診断・就職関連行事	3月31日 (火)
3年生健康診断・就職関連行事	4月1日 (水)
2年生健康診断・就職関連行事	4月2日 (木)
入学式・新入生ガイダンス (八王子キャンパス)	4月3日 (金)
★新入生健康診断・就職関連行事 プレースメントテスト	4月4日 (土)
新入生学部ガイダンス・防災訓練	4月6日 (月)
新入生学生生活ガイダンス	4月7日 (火)
授業開始	4月8日 (水)
履修登録	4月15日 (水) ～4月22日 (水)
★春季保護者懇談会	4月25日 (土)
★祝日授業開講	4月29日 (水)
スポーツ大会 (八王子キャンパス)	5月23日 (土)

学位記授与式によせて

学位を授与される皆さん、おめでとうございます。また皆さんを支えてこられたご家族や関係者の方々へ心からお祝い申し上げます。

皆様は社会に出て、大学で学んだ教養、専門知識や技術を生かしてこれから仕事をして行くこととなります。この4年間を振り返ってみれば、高等学校までの学習（主に覚える）と大学での学問との違いに戸惑いを感じたと思います。そして「学を問う」という主体的な学修に慣れるまでに時間がかかったのではないのでしょうか。授業などの学修だけではなく、サークル活動、ボランティア、学生生活などいろいろなところで主体的に多くの知識や技術を学んできたと思います。

本学は実学主義教育を掲げております。この内容は国際的な教養を身につけ、実践的な専門知識や技術の教育研究をすることで、国際的な教養の中には、社会人になるための基礎である豊かな人間性、高い倫理性、創造性の育成をアクティブラーニングやPBLを通して身につけてこられたと思います。また、専門の学修では実践的な専門知識や技術を学び、これらを総合的に活用して新しい価値の創造ができる能力を養ってきたと思います。また、これらの教育や活動を通してコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけたと思います。

これらの能力は社会に出て最も必要となる能力だと思います。本学ではこれらの能力を教育の最終的なラーニング・アウトカム（学習の成果）と位置づけてディプロマポリシー等で謳っています。皆様は本日学位を授与されるので、これらの能力を身につけたと判断されたこととなります。

社会に出るといろいろな問題や課題に直面します。これを解決するためにはこれらの問題

をよく分析・評価して問題の本質を見抜く必要があります。そしてクリティカル・シンキング（批判的思考）や創造力を発揮して問題の解決をしていただきたいと思います。皆様はPBLのグループワークで問題や課題を発見し、この解決に取り組んできた経験をお持ちなので、この能力を就職したら発揮していただきたいと思います。

さて、アベノミクスの影響で一般経済は上向きになっていますが、不透明な時代であることには変わりがないと思います。先進国だけではなく発展途上国も含めて21世紀は持続可能な社会（サステイナブル社会）の実現を目指すべきと私は考えています。この4月から新しい工学部を開設しますが、サステイナブル社会実現のための工学、サステイナブルエンジニアリングの教育と研究をするための学部です。また、工学部だけではなく、他の5学部についても最終的にはサステイナブル社会の実現に貢献することがゴールとなっています。このことは本学のアドミッションポリシーなどにも明示されています。

それでは、持続可能な社会を実現するためにわれわれは何をなすべきか。これが問題です。これを考える時には20世紀までの科学技術の分析と評価が必要になります。

特に20世紀後半が国は高度成長期を迎え日本の経済活動がピークに達します。日本の産業はものづくりで、多くの高性能な製品を安価で大量に生産し、海外に輸出したのです。この結果、われわれ国民の生活の質は著しく向上しました。そして、アジアでは唯一、先進国の仲間に加わりました。

しかし、このような産業や社会の発展には矛盾も生じてきました。まず起こったのが環境問題でした。また、日本は資源・エネルギーがほとんどない国ですから、これらの高騰と枯渇が予想されました。さらに、人件費が上

り、結果的に日本企業の海外移転が進みました。これらの課題を解決するには新しい発想が必要です。それが、サステイナブルな技術やスキルなどだと思います。環境に負荷を与えない技術の開発・資源の再利用と再資源化をする。省エネルギーな技術や新エネルギーの開発などが必要だと思います。

本学の基本理念の「生活の質の向上と技術の発展に貢献する人材を育成する」の究極の目的は、サステイナブル社会の実現に貢献する人材の育成だと思います。このことを念頭において行動していただきたいと思います。

社会に出るといろいろな考え方や能力を持つ人に囲まれて生きていかなければなりません。また、会社ではいろいろな人と共同して仕事をしなければならず、対人関係も複雑になってくるでしょう。自分に自信を持ち、与えられた仕事に全力を尽くす情熱が極めて重要と思います。弛まぬ努力こそ、成功するための原動力と言えると思います。

東京工科大学は設立から28年になり、5年前に蒲田キャンパスに進出し、理工系の総合大学に発展しています。これからもサステイナブル社会の実現に向けて6学部がそれぞれの分野で成果を上げていくと考えていますが、そのためには卒業生の皆様のサポートが欠かせません。

皆様には是非、同窓会に入会していただき、東京工科大学の発展をサポートしていただきたいと考えております。

皆様の大きな飛躍と更なる活躍に期待して、学位記授与式のお祝いの言葉と致します。

平成27年3月20日
東京工科大学 学長 軽部征夫



東京工科大学蒲田キャンパスを望む 撮影：本学園卒業生

東京工科大学報

発行月 || 平成27年3月

発行 || 東京工科大学

編集 || 大学事務局業務課

〒144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22

☎ 03-6424-2111 WEB : <http://www.teu.ac.jp>

Mail : jm-kmgyoumu@stf.teu.ac.jp